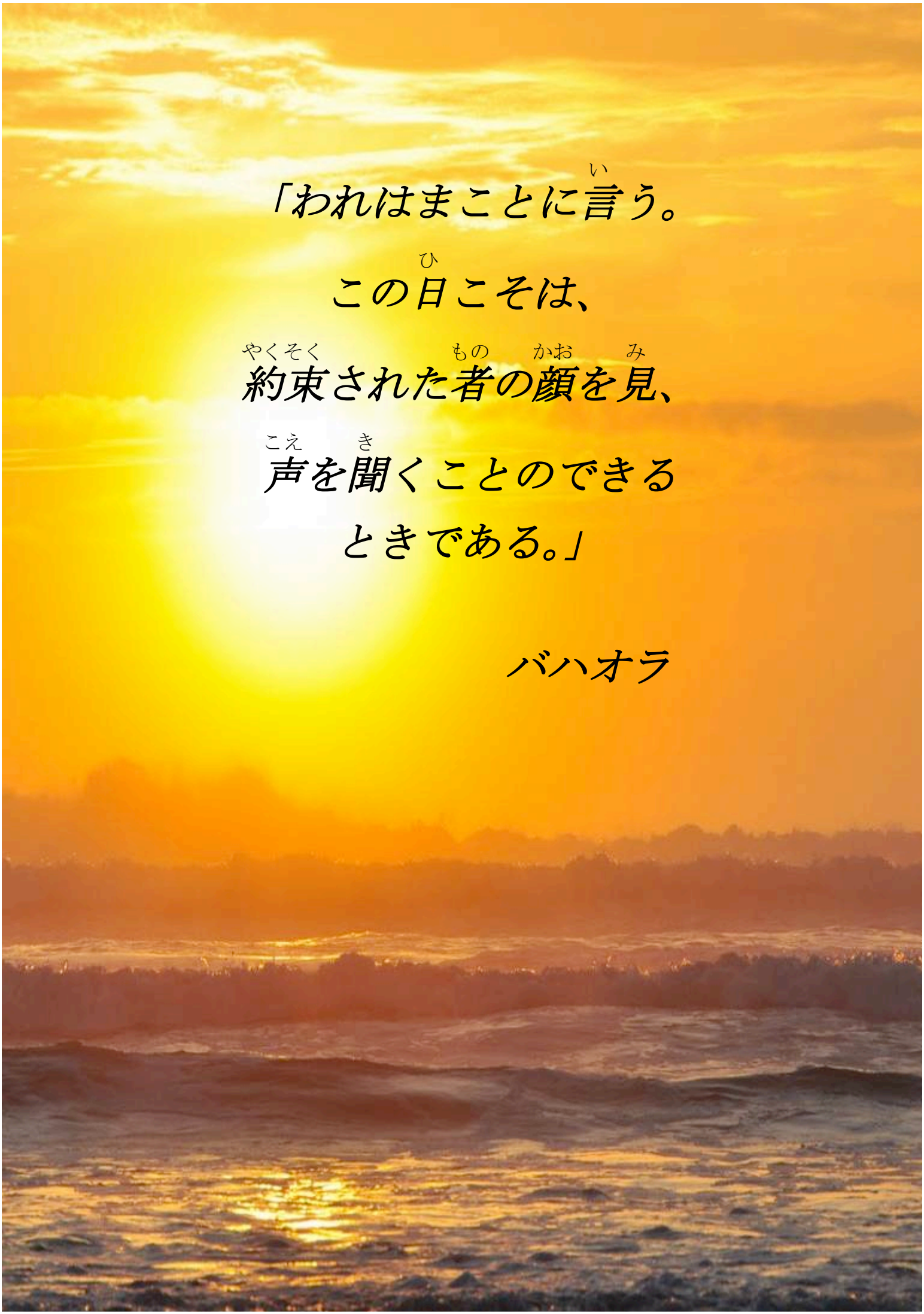
Painting by Stephen Paschal

ひるの星

No.　264

もくじ

バハオラの言葉……2
バハオラ　……3
クイズ……10
ぬり絵……11
くつ下で作る雪だるま……12
みんなの写真……13
保護者のページ……14



「われはまことに言(い)う。

この日(ひ)こそは、

約束(やくそく)された者(もの)の顔(かお)を見(み)、

声(こえ)を聞(き)くことのできる

ときである。」

バハオラ

バハオラ

「お父さん、お母さん、みんな準備できているよ！」　モナが呼びました。夕食後のコーヒーを楽しんでいたお父さんとお母さんは顔を見合わせました。

「準備できているって？　何の？」お母さんが驚いて聞きました。

「今夜はお父さんの昔話の代わりに、私たちがバハオラのお話をすることになっていたでしょう！ちっちゃいアニサだってはりきっているんだから。アスマと私が手伝ったのよ！」モナが誇らしげに言いました。お父さんとお母さんは笑って、

「あっ、そうか、分かった。今すぐ行くよ！」と答えて、子供部屋に向かいました。モナのきょうだい4人と、となりのチヒロちゃんが待っていました。チヒロちゃんはシャラの仲良しで今夜は泊まりに来ていました。みんなで半円になって床に座っていました。

「みんな、お話の準備いいかい？」リアズがこうふんして大声で言いました。お父さんとお母さんは、みんなと円になって座りました。

「だれから始めるのかな？」とリアズが言いました。すると、お父さんが、

「チヒロちゃんのために、お父さんが少しバハオラを紹介しようか？そうすれば、これからみんなが話すことが分かりやすくなると思うけど。」と言いました。

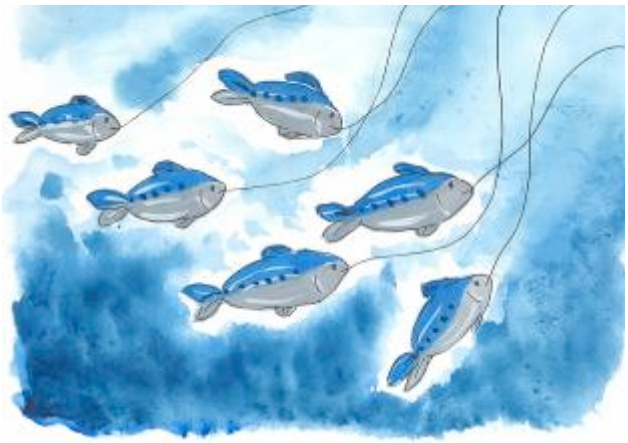
「さんせい！」と子どもたちが言って、お父さんが始めました。

「その昔、百年以上も前、ペルシャ、今のイランに、ひとりの特別な赤ちゃんが生まれました。この赤ちゃんは世界中の人々が長い間待ち望んでいた御方で、後にバハオラと呼ばれるようになったんだ。バハオラとは神様の栄光という意味で、人類が新しい文明を築くために神様が送られた御方なんだよ。その文明は人類の黄金時代となって何万年も続くことになると言われているんだよ。」

「すごい！」子どもたちはびっくりして声を上げました。お父さんが続けて、

「ある夜、バハオラのお父さんは、不思議な夢を見ました。」するとアニサが、「やめてー！」と叫びました。「それは私が話すのよ！！」　「おっと、ごめん、ごめん！」とお父さんがあやまって、「それではアニサ、その話をどうぞ！」と言ってアニサに代わりました。

「バハオラのお父さんが見た夢はね。。。。。。。」アニサは一息ついて、お父さんの方をにらみました。　「バハオラが広い海を泳いでいたの。体はまぶしくきらきら輝いて、頭からパーっと広がった長い髪の一本一本に魚が食いついていたの。でもバハオラはそのまま泳ぎ続けて、魚たちも、そのまま一生懸命ついて行った



の。」アニサは泳ぐようすや髪の広がりを真似て見せました。

「それは分かったよ。それからお父さんが夢から覚めて、どうしたんだ？」アスマがつづきを促すように言いました。

「お父さんは夢のことがわかる人を呼んで、その不思議な夢のことを話しました。その人が言うには、広い海はこの世界のことで、魚たちは世界の人々で、バハオラの行く先を止めようと引っ張る人もいるけど、みんな、ついて行くようになるんだって！」と言って、アニサは一息つきました。

「それからどうしたの？」今度はモナがつづきを促しました。

「バハオラが行く先には、たくさん問題が起こるけど、いつも神様に守られると言われたの。おわり。」みんなが拍手しました。アニサはにっこりして小おどりしました。

「次はおれだ！」とリアズが立ち上がって始めました。

「バハオラがまだちっちゃいころ、お兄さんの結婚式の後で宴会が何日か続きました。最後の日に、バハオラはあやつり人形の芝居を観ました。芝居は王様のお城の中の出来事のことで、登場するのは王様とその家来たちでした。ひとつの場面で、王様の前に泥棒が連れて来られました。王様は、『その者の首を切り落とせ！』と命令しました。首切り人の格好をした人形が刀を振り下ろすと、泥棒の人形の首が吹っ飛んで転がり落ちました。」

「わあー、残酷！気もち悪い！ひどい！」モナたち女の子が一斉に叫びました。リアズは、女の子たちをからかうように笑いながら、さらに続けました。

「もうひとつの場面では、一人の男が、戦争が始まったことを伝えに来ました。それらしい大砲の音や煙が立ち込めました。。。。。。このように様々な事が次々に起こる長い芝居でした。バハオラは最後まで、じっと観ました。幕が下りて、人形つかいが大きな箱を抱えて出て来ました。バハオラは芝居に登場した王様や家来たちはどうなったのか、箱の中身は何かとたずねました。男は、みんな箱の中にしまってあると答えました。そのときバハオラは実際の世の中もちょうど、その箱の中におさまった芝居の道具と同じようなものだと思いました。美しい衣しょうも金銀、宝石や王様とその家来たちや、兵隊にしても何もかもが儚い、かげろうのようなものだと思いました。このとき、バハオラはまだ幼かったけれど、この世で大切なのは神の愛のように精神的なものだと

知りました。おわり。」とリアズが天を仰ぐように両手を広げて座りました。みんな笑い出しました。

「次は私よ！」と言って、シャラが立ち上がりました。チヒロちゃんが、待ってましたとばかり拍手しました。

「私のは、バハオラが大人になってからのお話です。バハオラとその家族が意地悪な国王やお坊さんに、ペルシャから、となりの国のイラクのバクダッドに追い出されていたころのことです。自然の中で神様とお話して、いろいろな問題を解決するために、バハオラは一人でクルディスタンという山にこもりました。ほら穴に住み、簡単な食事にして、よく山歩きをしました。ある日、山で男の子が泣いているのに出会って、どうしたのかとたずねました。男の子は宿題をすませていないので学校に戻れないと、泣きながら答えました。コーランの一節を書き取るのが宿題でした。男の子はそれを書き取る紙さえも失くしていたのです。バハオラはその子が書き取れるよう、その節を書いて見せました。少年は学校に戻って、それを先生に見せました。すると先生はとても驚いて、『だれがこれを書いて見せたのか？』と少年に質問しました。少年が『山の男の人です。』と答えると、『その男の人は普通の人ではない、きっと高貴な御方だ！そうでなければ、こんなには書けない筈だ！』と先生は驚きの声を上げました。それからというもの、その山のやさしくて、賢い高貴な御方のうわさが流れました。うわさを聞いて、方々から人々が山に入ってきて、この高貴な御方にアドバイスをお願いするようになりました。このうわさがバハオラの家族にも伝わり、その御方はバハオラにちがいないとわかりました。そこで家族は使いの者を送って、バハオラに家に帰って来るようにお願いしました。バハオラがそれに応えられたので、みんな大喜びでお迎えしました。バハオラが山に入って二年も経っていました。おわり。」シャラはほほ笑んで座りました。みんなが拍手しました。

「次は誰なの？」 とお母さんが聞きました。モナとアスマが顔を見合わせて、

「最初はグー、ジャンケン、ポン！」と、ジャンケンをして、勝ったアスマが、みんなの前に立って話し始めました。

「バハオラはバクダッドから、さらにトルコのコンスタンチノープル、アドリアノープル、そしてついにイスラエルにある、町全体が牢屋のアッカというところへ追いやられました。ペルシャ政府がそうまでしてバハオラを追いつめた理由は、その教えにありました。魂は男も女も平等、人はみんな同じ家族の仲間で、世界は一つの国となって共通の言葉で話すことができるようにしなければならないと言ったからです。人々を支配しているペルシャ政府やお坊さんにとってそれは都合が悪いので、教えが広がるのを抑えようとした

のです。バハオラは、人類は子どもの時代から大きく成長して成熟の時代に来たから、この教えが必要ということを伝えようとしました。そしてこれは神さまからのメッセージだと言って、当時、その地方で一番力のあるオスマン帝国の支配者に、そのことを伝える手紙を出しました。その手紙は、バハオラの忠告に従わなければ、神様が許されないとも告げていました。これを読んだ総理大臣は青ざめて、『この手紙の主は、王の中の王が家来の王に命令しているようだ！』と言って怒り、思わず声を詰まらせました。おわり。」

「わあ、こわい！」子どもたちが声を上げました。アスマはお辞儀をして座りました。

「それで、その支配者はどうしたんだ？」とリアズが聞きました。

「従わなかったんだよ。」とアスマが答えて、続けました。「結局、オスマン帝国はつぶれてしまいました。さて次はモナの番でーす。」モナが立ち上がって話し始めました。

「バハオラは次々と世界中の王や指導者に、もちろんアメリカの指導者にも手紙を出しました。搾取（お金をしぼり取ること）するのは止めて国民を大事にするように、指導者は支配者ではなく国民の僕（召使）となるべきだと告げました。指導者は集まって話し合い、戦争が起こりそうなときは、みんなで止めること、男子だけでなく女子にも教育が必要とすること、極端な貧富の差があってはならないこと、世界中の人が共通語を話せるようにすることなど、いろいろ伝えました。」

「世界共通語のことは、おれがもう言っただろう！」とアスマが言いました。モナはアスマをにらんで続けました。

「手紙の一つはフランスのナポレオン三世宛てでした。当時、ナポレオン三世はヨーロッパで一番力があって威張っていました。ナポレオン三世は、バハオラの手紙にちらっと目を通しただけで、『この手紙の男が神というなら、吾輩はその二倍の神だ！』と言って、手紙を自分の背中の後ろに投げ捨ててしまいました。」モナはその仕草を真似て、紙を背中の後ろに投げ捨てて見せました。子どもたちは思わず、「おそろしい！！」と声を上げました。モナが続けて、

「バハオラはもう一度ナポレオン三世に手紙を出し、そのような姿勢ならナポレオン三世はフランス皇帝の座を失うと忠告しました。それから一年も経たない内に、その通りになったのです。バハオラはドイツ皇帝ウィルヘルムにも手紙を出しました。それには、戦争の準備を止めなければ、ドイツの国土は一度ならず二度も負け戦で血に染まることになるだろうと忠告されていました。皇帝が忠告を無視したので、ドイツは第一次、二次の世界大戦を起こして、ひどい痛手を受けました。」

「わあー！」と子どもたちが声を上げました。モナが続けて、

「バハオラが世界中の指導者に送った手紙に…たった一人、色好い返事をしたのが、イギリスのヴィクトリア女王でした…　やっぱり女子の方が男子よりも物分かりがいいのね！」　「何だ、それは！」　リアズとアスマが怒って言いました。

「このように、ほとんどの指導者が耳を傾けなかったので、私たちのような一般の人が世界平和に向けて努力するようになったのよ。これを小平和というの。しかし、これだけでは十分じゃないの。すべての人が努力して最大平和になるよう頑張らなくちゃ！それにしても、浅はかな指導者たちよね！　はい、これで私のお話は終わり。」

子どもたちはモナに拍手しました。

「次はチヒロちゃんの番よ！」とシャラが立ち上がって、チヒロちゃんの腕を引っ張りました。

「チヒロちゃんにも何か話してもらうように頼んでおいたのよ。」

「それはいいことに気付いたわね、シャラ。」お母さんがほめました。シャラがチヒロちゃんの話を紹介しました。

「チヒロちゃんは、イスラエルにいたころのバハオラのことを話しまーす！アッカの牢屋からバージの館に移ってからのことです。それではチヒロちゃん、どうぞ！」

「チヒロちゃん、がんばれ！！」　子どもたちが応援しました。チヒロちゃんはちょっとうつむいてから、勇気を出して話し始めました。

「たくさんの人がバハオラに会いにバージにやって来ました。その中には子ども連れの人もいました。ある日の午後、その日はとても暑い、たぶんここ沖縄みたいな日かな？　みんなお昼休みをとっていましたが、一人、四才くらいの男の子は昼寝ができないようでした。私の弟みたい。アガ・モハメッドという、その子は退屈しのぎに歩きまわっていました。食品室に来て、棚にある角砂糖を見つけました。アガ君は小さな手でその角砂糖をわしづかみにしました。広間に来てみると、バハオラがこっちにやって来るのが見えました。アガ君は急いで両手を後ろに隠しました。バハオラはやさしくほほ笑みながら、アガ君を広間の真ん中にあるテーブルのお皿にのったケーキの方に案内しました。アガ君はケーキは欲しいけど、後ろにした両手をどうしたらいいか戸惑ってしまいました。バハオラは笑いながら、ケーキの一つをアガ君の頭の上にのせました。そして、『きみは甘いものが好きなようだね。しっかり食べなさい。それでは、さようなら。神様が守ってくださるよ。』と言いました。おわり。」

「いいぞ、チヒロちゃん！」みんなが声援をおくりました。そのとき、

「おれ、もうひとついいお話があるんだけど、いいかなあ。」とリアズが言いました。

「いいよ。」とお母さんが答えたので、リアズが始めました。

「これはイスラエルの小さな庭園レズワン・ガーデンでの話なんだ。ある夏の日、この庭にバッタの大群が押し寄せて来ました。バッタはそこらじゅう片っ端から食い尽くすんだ。」

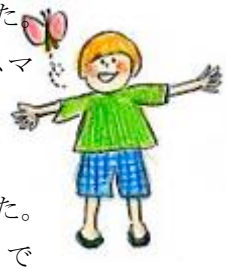
「知ってる、知ってる。それでどうなったんだ？」アスマがもどかしそうに聞きました。

「庭もバッタの群れに食い尽くされそうになったんだ。そこで、庭師のアブル・カズィムはがっかりしてバハオラのところにやって来て、『バハオラさま！バッタの大群がやって来て、あなたさまが涼まれるところもなくなってしまいそうです。お願いですから、奴らを追い払っていただけませんか？できたら、やっつけてくださいよ！』と言ったんだ。」　みんなどうなることかとドキドキしてきました。リアズが続けて、

「バハオラはほほ笑んで、『バッタもお腹が空いているんだから放っておきなさい。』と言われたんだ。アブル・カズィムは庭に戻ってきましたが、バッタがムシャムシャ食べているのを見て、がまんできなくなり、またバハオラのところに行って、不平を言いました。バハオラはバッタに、『アブル・カズィムが、お前さんたちを嫌がっているよ。でも神様が守ってくださるからね。』と言いながら、外套の裾を広げてバッタに向かってバタバタと仰がれました。バッタは飛び上がり、大きな雲のような大群になって飛び去って行きました。おわり。」

「すごい！」と言って、みんなリアズに拍手しました。

「バハオラって、誰にでも優しいのね。子どもだけでなく虫にでも！みんな神様からのおくり物だものね。」　チヒロちゃんが感心して言うと、みんな賛成してにっこりしました。



「おれも、とってもいい話を思い出したんだけど、いいかな？短い話なんだ。」とアスマが言って、続けました。

「どんな生き物でも神様が創られたおくり物だというバハオラの教えなんだ。」

「わかった。でも、これでおしまいよ。もうおそいんだから。」お母さんが釘をさしました。

「鳥打の名人の話です。この狩人は鳥を打ち損じたことがないというので有名でした。でも、この男にとって狩りは食べるためのものではなくて、ただの遊びでした。本当にかわいそうなのは鳥たちだよね！ある日、この男が狩りに出かける途中で、バハオラに会いました。バハオラは、神様は遊びで狩りをするのはお望みではないと告げ、遊びのための狩りを止めるよう言いました。男はその忠告を無視して友人と狩りに出かけました。しかし、その日はどんなに狙いを定めても撃ち落とすことができませんでした。男は恥ずかしくて、いらいらしました。その日おそく、すぐ近くに一羽の鳥を見つけました。男はこのチャンスを逃すまいと慎重に狙いを定めて撃ったのですが、またも外れて、鳥は驚いて男の目の前を飛んで来ました。男は今度こそはと、もう一度狙って撃ちました。が、またもや失敗。

そのときふと、バハオラが、『神様は、意味もなくむやみに生き物を殺すのをお望みではない。』と言われたのを思い出しました。それからというもの、この男は遊びで狩りをするのを止めました。おわり。」

「やった！アスマ！」子どもたちがアスマに拍手しました。みんなは、アスマが生き物を大事にし、どんな生き物の肉も食べないのを知っていました。

「いいお話だったわ。アスマ。」お母さんがほめました。

「みんな、すごく上手な話しぶりだったわ。感心したわ。いつかみんなも、今話に出た聖地に巡礼に行けるよう、神様が助けてくださるでしょう。さて、今晩はこれくらいにして、お祈りをして寝る準備をしましょう。」

「あーあ！」子どもたちが残念そうにため息をつきました。

「それじゃ、今のお話の他にもまだある筈だから、次のフィーストでつづきをしたら？」とお母さんが言いました。

「そうだ、そうしよう！」　子どもたちとチヒロちゃんはうれしくなって、お父さんとお母さんを抱きしめました。

クイズ

1. 子どもたちは何を準備していましたか？

_____

2. アニサは何の話をしましたか？

_____

3. あやつり人形の芝居は何を見せる芝居でしたか？

_____

4. あやつり人形の芝居を観て、バハオラは何を知りましたか？

_____

5. シャラが話したお話しでは、バハオラは誰を手伝いましたか？

_____

6. バハオラの手紙を読んだ総理大臣はどうしましたか？

_____

7. バハオラの手紙を読んだナポレオン三世はその手紙をどうしましたか？

_____

8. ドイツ皇帝に対して、バハオラは、その忠告に従わなかったらドイツはどうなると、言われましたか？

_____

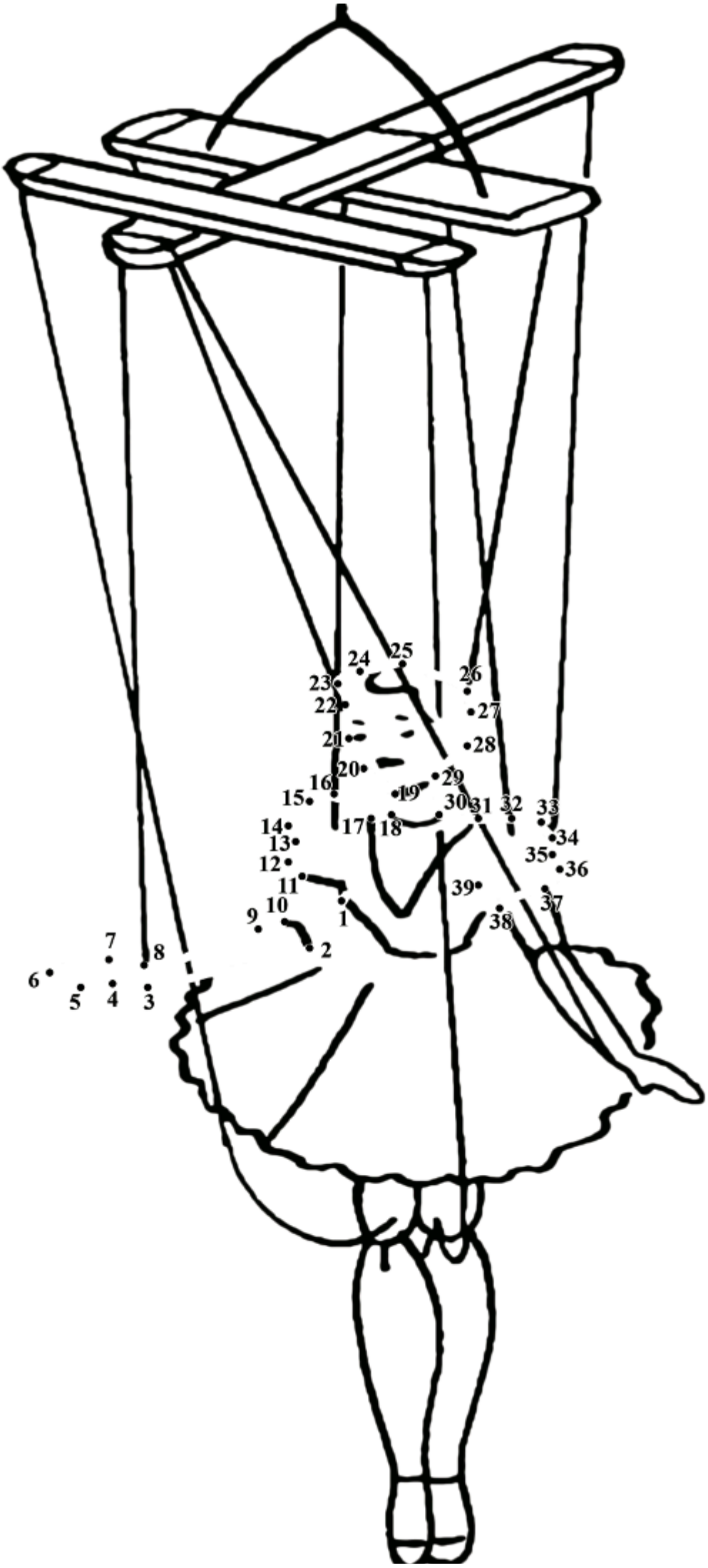
9、チヒロちゃんは何の話をしましたか？

_____

10. 最後の二つの話では、人間は生き物をどう扱ったらいいと言っていますか？

_____

上の質問にいくつ答えられましたか?　答は保護者のページにあります。


24
25
23
26
22
27
21
28
20
29
16
19
15
30
31
32
33
14
17
18
34
13
35
12
36
11
39
37
10
1
9
38
7
8
2
6
5
4
3

くつ下で作る雪だるま

材料

*白の３～４才用のくつ下（赤ちゃん用でもよい）
*はさみ
*白い糸
*スパンコール、ボタン、色マッチ針
*木工ボンド（白）
*リボンの切れ端またはスカーフの端切れなど
*毛糸 少々 （帽子の頭に付ける毛玉）
*米少々 （ぬいぐるみに詰めるもの、米でなくても良い）

作り方

*写真のように、くつ下のつま先部分（底の三分の一くらい）を切り取る
*かかと部分の方の切り口を白い糸でグルグル巻きにしばって、袋にする.
*袋になったくつ下を裏がえして、米をつめる
*袋の口を白い糸でグルグル巻きにしばる
*雪だるまの頭になるように袋の 1/3 のところで白い糸でしばる
*スパンコールにマッチ針を刺して目と鼻をつくる
*お腹の辺りにボタンをつける
*目、鼻、ボタンがはがれないように、木工ボンドをその上に流す.
*切り取ったつま先部分の切り口を折り曲げて帽子の縁にする
*雪だるまの首にスカーフを巻く
*帽子の頭に毛玉を木工ボンドで、のり付けする
*雪の妖精のように何かきらきら輝くものをつけると楽しいでしょう

LITTLE DUDE

保護者のページ

一致協力せよ、おお、地上の王たちよ。それによって不和の嵐は鎮まり、人民は安らぎを見い出すであろう。汝これを理解する王ならば。…　もし誰かが汝に保護を求めてきたら、その者に庇護の手を差しのべ、裏切るようなことがないようにせよ。

バハオラ「万軍の召喚」より

我はただ世界の複利と平和を願うだけである。にもかかわらず、支配者たちは我を争いや暴動を扇動するものとして、拘束、流刑に値するとみなした。…　すべての国が信仰で一体となり、すべての人が同胞のようになること、人々の間に親愛と和合の絆が強められること、さまざまな宗教の相違点が消滅し、人種差別が廃止されること、これらのどこに害があると言うのだろうか？　…　しかもそれは必ず実現し、これら無益な争いや破滅的な戦争はなくなり、最大平和が到来すると言うのに。…　バハオラ

地上の民、同胞たちにあらかじめ運命づけられている時代が、今や到来している。聖なる書に書き記されているように、神の約束はすべて果たされてきたのである。

バハオラ

おお、汝ら、民の間の英知ある人々よ！疎遠に目を閉じ、その目を和合に注げよ。全人類に複利をもたらすものにしっかりとすがれ。この地球は単に一つの里、一つの住処でしかない。疎遠を引き起こす虚栄を棄てること、調和を保証するものに集中することは汝らの義務である。バハの人々の見解では、栄光はその者の知識、高潔な行い、賞賛に値する性格、英知にあるのであって、その者の国籍や階級にあるのではない。おお、地上の人々よ！この天来の言葉に感謝せよ。実に、これは知識の大海を航海する船のようであり、理解の領域を照らす輝く発行体のようである。　バハオラ　「バハオラの書簡」より

スティーヴン・パシャール氏のご好意で、「ひるの星」に氏の絵の使用許可を得ています。氏の作品は下記のホーム・ページでご覧になれます。

http://www.stephenpaschal.com/archived-work.html

クイズの答え：１）バハオラについてのお話　２）バハオラのお父さんが見た夢　３）王様のお城の中の出来事　４）この世は芝居と同じように儚いもので、大切なのは神の愛のような精神的なものであるということ　５）宿題ができずに困っていた少年　６）驚いて顔が青くなった　７）自分の背中の後ろに投げ捨てた　８）ドイツは二度も戦争を起こして負け戦で国土を血に染めるだろう　９）甘い物が好きな４才くらいの男の子の話　１０）どんな生き物も神様のおくり物だから、傷つけないようにすること

Ｎｏ．264
2015 年 12 月発行

以下のリンクにアクセスすると「ひるの星」をカラー印刷することができます。
http://hirunohoshi.weebly.com/

日本バハイ全国精神行政会
〒160-0022 東京都新宿区新宿７丁目２番１３号
電話：03-3209-7521　ＦＡＸ：03-3204-0773
ひるの星委員会：グレン・ロウ、バウデンカービー真己、平原静志、平原ルアナ
物語：平原ルアナ
和訳：平原静志
ぬり絵：www.connectthedots101
写真：ウィキペディア、平原ルアナ、イヴァ・尊田、グレン・ロウ
さし:絵、平本かおり、スティーヴ・パスカル、グレン・ロウ
テクニカルアドバイザー：グレン・ロウ
監修：野口メアリー